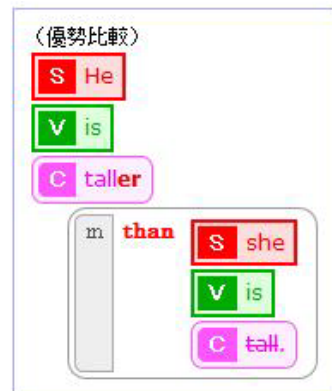
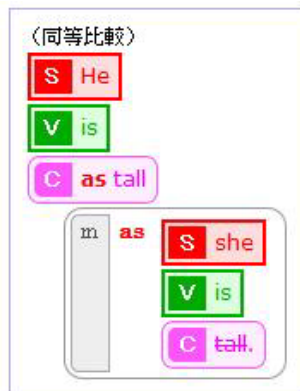
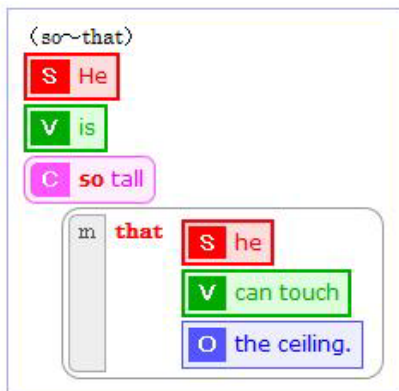


英文構造図

Ⅲ・活用編

- 第 2 版 -



目 次

1 各種の構文 1

- 1.1 相関構文 1
and と or / not と but
- 1.2 話法 3
被伝達部が平叙文 / 被伝達部が yes/no 疑問文 /
被伝達部が wh 疑問文 / 被伝達部が命令文 /
被伝達部が重文 / 複雑な例
- 1.3 程度と比較 7
S V C の C (形容詞) について説明・比較する場合 /
M について説明・比較する場合 / m について比較する場合 /
自分の認識と比較する場合 / 比較の否定 /
not so much A as B / not so much as ~ /
no more than ~
- 1.4 語順が標準的でない場合 14
倒置 / 後置 (重名詞句転移) / tough 構文 /
強調構文 / 繰り上げ構文

2 例文学習の方法 20

- 2.1 例文学習の必要性・有用性 20
- 2.2 知識と能力の違い 24
- 2.3 音声面は初期段階で 26
- 2.4 語句の置換と追加 28
- 2.5 例文自作による方法 29
- 2.6 複雑な例文のこなし方 ~ 再措定的学習法 31

3	複雑な事例	35
----------	--------------------	-----------

4	暫定的総括	48
----------	--------------------	-----------

4.1	外国語学習とは	48
------------	----------------	-----------

外国語学習で大切なこと / 長文派 vs. 短文派 vs. ドリル派

4.2	筆者なりの結論	55
------------	----------------	-----------

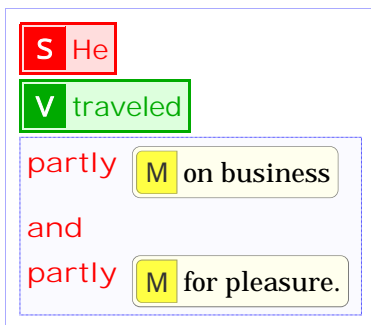
方法の違いを超えて

1 各種の構文

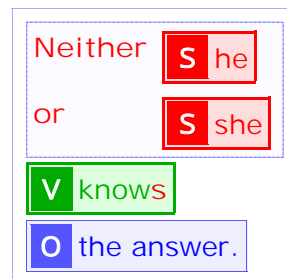
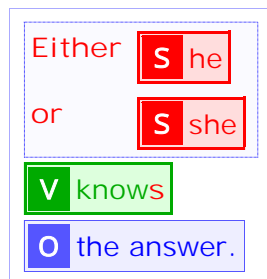
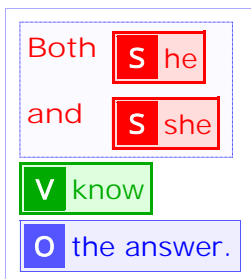
1.1 相関構文

複数の語句が関連し合っているもの。いろいろあるが、代表的なものを挙げるにとどめる。

and と or

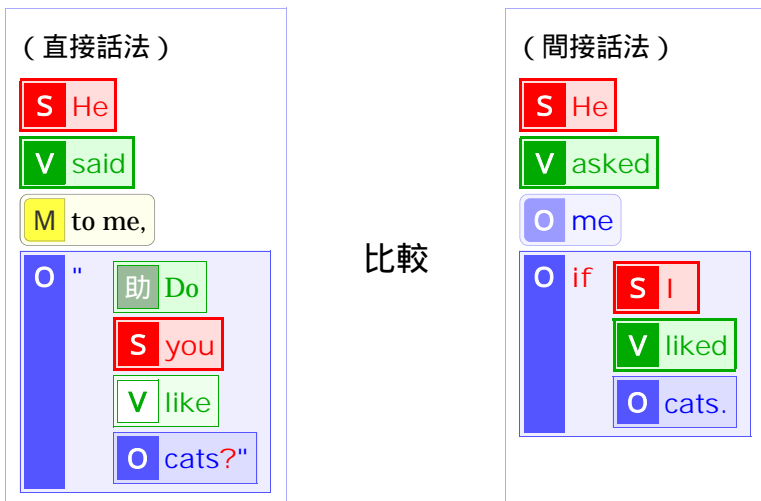


【説明】 「彼は半ば商用で、半ば楽しみのために旅行した」の意。



【説明】 順に「彼も彼女も答を知っている」「彼か彼女のどちらかが答を知っている」「彼も彼女も答を知らない」の意。
“either” “neither” においては2つ目の主語（上の例では“she”）がVを支配するため、三単現の“s”が付いている。

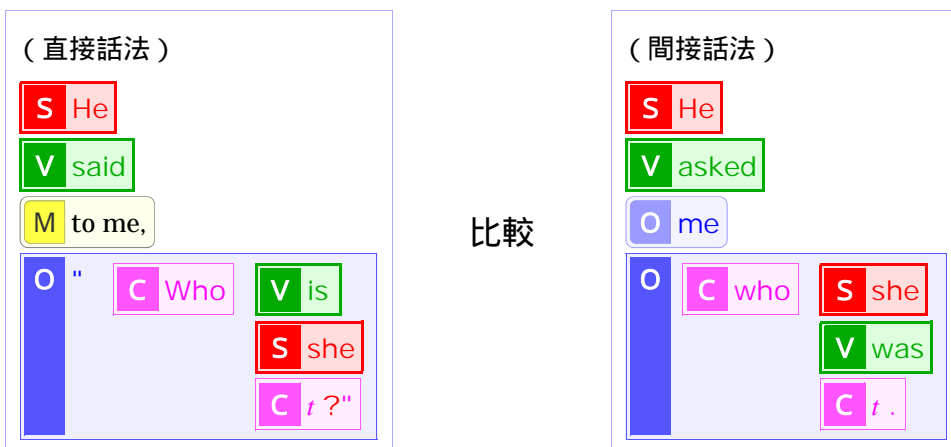
被伝達部がyes/no疑問文



【説明】左は「彼は私に『猫が好きですか』と言いました」、右は「彼は私に猫が好きかどうか尋ねました」の意。

【注意】間接話法で“like”が過去形になっていることに注意。時制の一致である。

被伝達部がwh疑問文



【説明】左は「彼は私に『彼女は誰ですか』と言いました」、右は「彼は私に彼女が誰なのか尋ねました」の意。

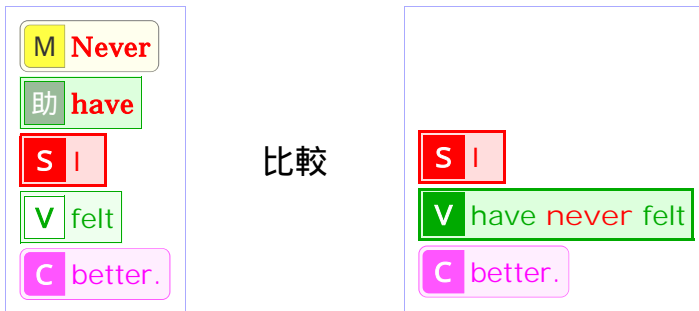
【注意】直接話法の“Who is she?”は単なるwh疑問文であるが、ここでは引用文として従属節(“said”のO)になっているので、冒頭の“Who”を左に括り出して表示してみた。こうすることで間接話法との対応関係が明確になる。

1.4 語順が標準的でない場合

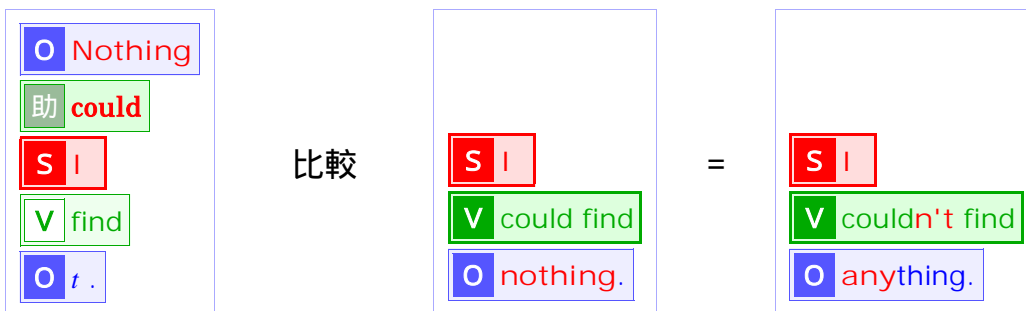
いろいろなものがあるが、いくつか挙げるにとどめる。

倒置

否定の意味を持つ要素が強調のため前に出る

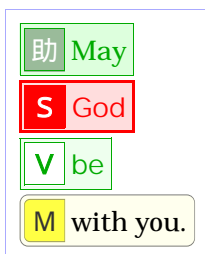


【説明】 「具合がよくなったと感じたことは一度もない」の意。



【説明】 「何も見つけることができなかった」の意。

祈願文



【説明】 「神があなたとともにありますように」の意。

2.3 音声面は初期段階で

ネットでいろいろな学習者の意見を読んでいると、「瞬間英作文をやっていると発音が不正確になってしまう」といったものがある。発音自体が身に付いていない以上、これは当然のことである。対策としては、**できるだけ早い段階で徹底的なインプットをする**に限る。

発音の基礎

適当な教材で、発音記号を一つずつつぶしていく。**全部で50種類程度なので、1週間でメドに集中的に取り組む。**

そういった教材には発音記号ごとに簡単な語が例として挙げられているから、それらを正確に発音できるようにするとともに、各音の発音方法を説明できるようにする。正確な音声がしっかりと耳にこびりつくまで、少なくとも100回以上聴くこと。

発音方法の理解にあたっては、各音をバラバラにとらえるのではなく、類似音との違いも意識するようにする。特に子音については、有声音と無声音をセットにして学ぶことが非常に大切である。

可能であれば、リズム（モーラと音節の違い）について概略だけでも学んでおくその後で役立つ。文形式でのトータルな訓練は で行う。

耳からの全面的インプット

上記 がある程度進んだあたりから、手頃な音声素材を徹底的に反聴して、その正確な音を頭にたたき込む。目安としては、印刷されたスクリプトを見たときに、その箇所の音声が明確に思い浮かべられるところまで反復する。それと並行して、使われている語句や構造についても、充分納得できるまで確認する。

素材には、厳選された少量のモノローグを用いる。手元の教科書に載っている文章でもよいし、リスニング試験問題などから選んでもよい。声質も含め、気に入ったものの中から、**ごく少量**を選んで使用する。内容の分野は問わないが、あまり速すぎたり遅すぎたりするものは避けた方がよい。

私はもっぱら『英会話データベース 必須1200』（岩村ら、ジャパントイムズ）の最初の単元を使用している。これは計176語で、時間にして1分ぐらいのものであるが、このぐらいの分量がこの種の訓練にはちょうど手頃であると思う。

方法であるが、**これもまず最初の段階で100回以上は反聴すること**。1分間の素材なら、100回聴いても2時間以内であるから、2～3日でクリアすること。聴くときには、覚えようとして力むよりも「注意深く聴き入る」という感じで取り組んだ方が、結果的によく覚えられる。

リスニングが楽にできるようになったら次に進む。

徹底的模倣

の素材について1文ずつ音読を試みる。聴いた音声の記憶が鮮明に残っている間に、無理のないスピードで音読を繰り返すようにする。必要なら、更に短く区切って練習すること。音声の記憶イメージが弱まったら、また何度か聴いて記憶のメンテナンスを図る。こと音声に関するかぎり、**自己流の音読は有害である**と心得ることが大事である(同じ理由でシャドーイングに取り組むのはまだ早い)。個々の音声についても の素材に適宜戻って確認する。

音読がスムーズにできるようになったら、正確度100%を目指しながら更に何度も何度も繰り返す。完全に覚えたと思っても、ときどき元の音声を反聴して、記憶のメンテナンスを図ること。何事もそうであるが、**基本段階での正確さがその後の実践における正確さの上限を画することになる**のであるから、手を抜くことなく徹底的にやっていただきたい。

素材全体を自信を持って音読できるようになったら次に進む。(もちろん指導者による判定があればベターである。)

対象の拡大

最初に の素材をできるだけ正確に何度か音読してウォーミングアップとする。

それから新しい素材にとりかかるが、最初は音声を聴かずに音読を試みる。このときに の素材のときと同じ感覚で読むように心掛ける。自分なりに取り組んだ後、実際の音声を聴いて確認する。違っている部分があれば修正して、その部分を中心に口に馴染むまで何度も音読する。

以下、**最初の素材と同じ感覚でできるようになるまで**、何度も音読する。結果を覚えるのではなく、**までに身に付けたものをこの素材に波及させるという姿勢**で取り組むこと。

その後は

以下、 の素材に戻りながら、多種多様な素材に挑戦していく。また、音読だけでなく、文法ドリルや会話練習など、あらゆる機会を活かして練習していく。

2.6 複雑な例文のこなし方～再措定的学習法

前説

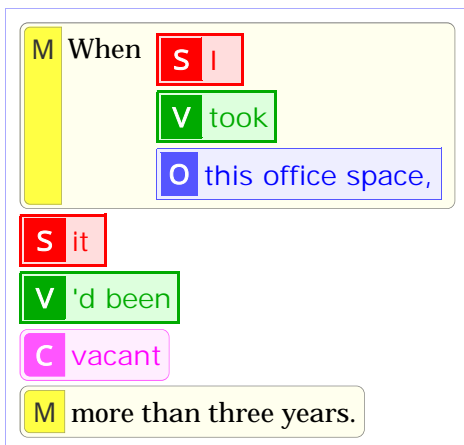
例文学習においては、まずその例文を「理解する」ことが重要だと言われる。しかし、何をどうすれば理解したことになるのであろうか。それが分からないと学習の助けとしては不十分であろう。

そこで次のような手順を踏む。これはちょっと堅苦しく言えば、

学ぼうとしている例文と既得の事項とを、
言語演算規則を媒介にして関連づける作業

である。

仮に習得したい例文が

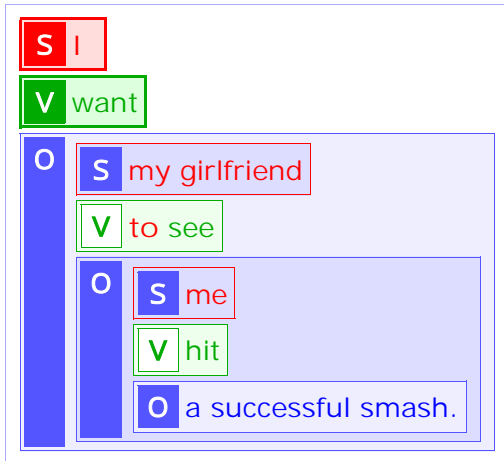


【説明】 「私がこの事務所に決めたとき、3年以上空いていたんです。」の意。出典は市橋敬三『TOEIC TEST 目標点数を必ずとりにいく。スコア600点レベル』p.151。

で、そのテーマが過去完了「継続」であったとする。

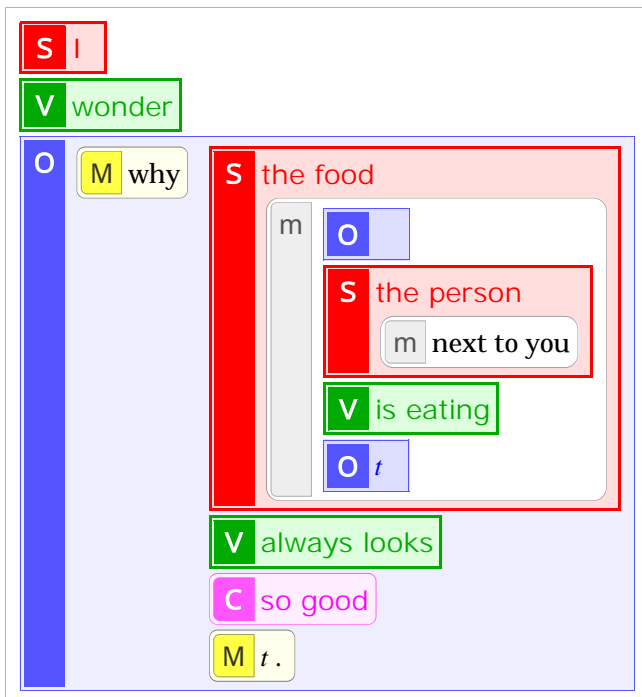
3 複雑な事例

構造図の作り方が分かったら、短い例文をどんどん覚える一方で、以下に紹介するような長めの文を1日1本程度覚えるとよい。短いものとは違って、多量の情報をソラで扱う訓練になるし、短い文が簡単に思えるようになるはずである。



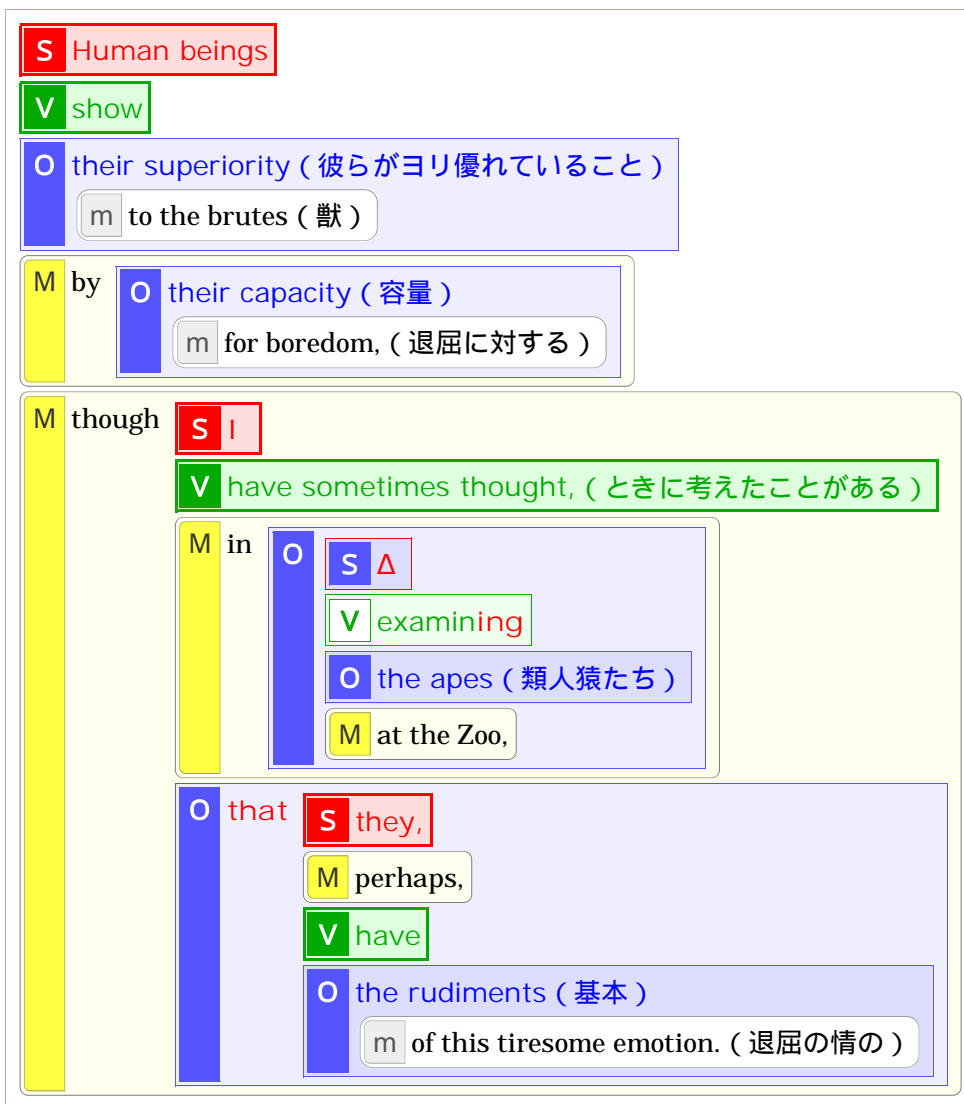
【説明】 「私がスマッシュに成功するところを彼女に見てもらいたい」の意。ネクサス目的語の中にネクサス目的語がある。

【出典】 岩村・スマイリー 『英会話データベース 必須1200』（ジャパンタイムズ）p.31より改変。



【説明】 「隣の人が食べているものはいつもよさそうに見えるのはどうしてかしら」の意。「かしら」は“I wonder why...”というかたちになっている。

【出典】 岩村・スマイリー 『英会話データベース 必須1200』（ジャパンタイムズ）pp.52, 57。



【注意】“at the Zoo”は“examine”を修飾する副詞として図式化しておいたが、直前の“the apes”を修飾する形容詞句の可能性もある。その場合に図がどのように変わるか、想像していただきたい。

【出典】佐々木『英文解釈考』（金子書房）p.5。

シュリーマンでも

外国語学習法に関してはシュリーマン『古代への情熱』から引用されることが少なくない。しかし、次の部分を知っている人はどのくらいいるだろうか。

.....しかしこの貧困と、懸命に働けばこの貧困から解放されるという確実な見通しとが、私をば何ものよりも学習への追い立てたのであった。そのうえ私はミナに値することを示そうとの願望を抱いていたが、これは私に不屈の勇気をさました育てた。そこで私は異常な熱心をもって英語の学習に専心したが、このときの緊急切迫した境遇から、私はあらゆる言語の習得を容易にする一方法を発見した。

これは有名な「このかんたんな方法とはまずつぎのことにある。非常に多く音読すること、決して翻訳しないこと...」の直前の段落（『古代への情熱』（岩波文庫）p.25）なのであるが、ノウハウ本の中ではほとんど紹介されてこなかったと思う。実際には、これこそが最も大事なポイントであるはずなのに、である。

対立の超克

それゆえ、どんなに優れた実績を持った人の主張であっても（あるいは有力な学説であっても）盲信すべきではないし、もっと言うならば、学習方法に関する「流派」間の対立にはとらわれすぎない方がよい。

学習方法について検討・議論することはもちろん重要なことではあるが、**真剣な実践を伴わないかぎり正しい結論を見出すことは難しいし、何よりも肝心の英語力が向上しない**からである。最初はおくまでも参考程度にとどめておくのがよい。

では本当に重要なことは何か？ それは、

大きな**ビジョン**・**目的**を描き、**対象**について正確に知ること、
 テーマごとに適切な**目標**を明確に設定すること、
 目標達成に必要な**方法**について調べ、
 既存のものの中から自分に合いそうなものを自らの責任で選択するか、
 あるいは新しく考え出すこと、
 具体的な**計画**を立てること、
 立てた計画に従って真剣に**実行**すること、
 こまめに**効果**を**測定**するとともに、
 ビジョン・目的・対象・目標・方法・計画について**反省**すること、
 必要に応じてそれらを**修正**・**変更**すること、
 可能であれば学習**効率**を更に向上させること、
 そして、
 以上の全過程において**自らを励まし続ける**こと

である。もちろんこれは他の分野にも共通する大原則である。

この総括は矢矧晴一郎氏の著書を参考にさせていただいた。